

柑芦会和歌山支部 第8回和歌山ぶらくり会 開催報告

和歌山支部長 山中盛義

テーマ：A I 技術の進化と地方創生

講師：西山泰仙（経済69期・院56期）（株TierMind 代表取締役

中村 仁（経済69期） システムエンジニア 工房 Kaze 代表

樫本凱斗（経済72期・院59期）地域団体「ほんわかプロジェクト」事務局長

去る令和7年12月13日に本年度2回目の「第8回ぶらくり会」を開催いたしました。参加者は紀学同窓会から岡村会長はじめ5名、柑芦会からは大阪支部より2名、和歌山支部からは13名で、講師関係者6名で総勢26名の開催となりました。

まず、樫本氏より「地域コミュニティとA Iの可能性」をテーマに地域活動の視点からA Iと地方創生の可能性に講演いただきました。地方での人口減少・過疎化が進む中、近年の情報伝達の多様化・複雑化があり、地域コミュニティが弱体化している現状で、A Iを使い、事務作業の効率化、地域PR・企画づくり支援、小規模DXの推進、住民サービス向上に繋ぎ、人材不足を補う作業力にA Iがいかに貢献できるかを説明いただきました。

次に僧侶でもある西山氏に「今すぐ使えるA I」をテーマに実践講演いただきました。NotebookLMというアプリで、ビジネス活用のヒントを実践説明いただき、和歌山の観光資源につき、従来より存在するバラバラなソース・資料から 多言語対応の音声ガイド、SNS投稿、PR動画を短時間に無料でできることを説明いただき、その質感や内容に感嘆いたしました。当該アプリは無料版がありますので、さっそく試してみました。

3人目に中村氏より「A Iでここまでできるー可能性の提示」をテーマにA Iを最大限活用するポイントと、どこまで効率化できるかを説明いただきました。一般的には ChatGPT が知られていますが、これは一般的な検索・相談相手であり、西山さんが説明していただいた NoteBookLMにより多くの情報・書類の要約・分析が可能となり、Google 提供のA Iアシスタント Gemini による情報検索・議事録等の作成・計画アイデア出しが瞬時に可能となることを実践していただきました。

最後に司会の渥美さんの進行で、質疑応答・意見交換の時間を設けましたが、QRコードにより講演の途中でも参加者からスマホで質問を受けており、これに関してもまずA Iによる回答がなされA Iがいかに短時間に情報をまとめ回答することができるかを身近に感じる事ができました。

今回の講演によりA Iが身近に感じられ、今後の業務・生活に役立てる一歩になったかと大変有意義な会になりました。



山中支部長（開会挨拶）



左は 岡澤副支部長（閉会挨拶）

中央奥は 赤松幹事長（全体司会）



中央 樫本さん（発表）



西山さん（発表）



中央 中村さん（発表）